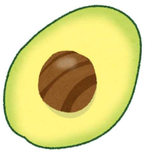
大内中だより
さつきの丘
【学校教育目標】
「あいさつ日本一を目指して」
令和５年１２月１４日 第35号

弁護士による授業支援事業　「アボカド問題」の解決方法とは？

１２月１１日（月）に、弁護士による授業支援事業を３年Ａ組の社会科の授業で実施しました。授業に参加していただいたのは、由利本荘市の髙橋重剛先生と、秋田市の三浦広久先生です。授業で取り上げたのは、サラダやスムージーに使われるアボカドです。健康ブームで注目されるようになったアボカドの生産拡大が、メキシコで地下水の枯渇などの環境問題を引き起こしているのですが、その解決策を、生産農家やメキシコ政府、日本の消費者等、様々な立場から考えていく内容でした。

お二人の先生には、立場ごとに設けられたグループ討議にも入っていただき、様々な視点から考えられるようにアドバイスをいただきました。授業の最後には、三浦先生から以下のような講評をしていただきました。

「この授業は、解決策が見つかっていない問題を考えるものだった。（中略）生産国と日本が、問題意識を共有して継続的に話し合っていく、粘り強く続けていくことでしか解決できないだろうと思う。そこに気が付いてもらうだけでもこの問題を考えた意義はある。皆さんには、食べる（消費する）立場からフェアトレードを使ってどうやって解決していくかを、もう少し深掘りして考えてもらえれば、世の中に役立つと思う。」



授業を通して、生徒たちは、新しい知識や技能を学習するだけでなく、こうした国境を越えたグローバルな問題に対する解決姿勢を学ぶことで、日本や世界の諸問題を、様々な立場や視点から捉える大切さを知ることが出来たと思います。

気になる方は、「アボカド問題」を探究してみてはいかがでしょうか？

どろぼうから何を学べるか

「我以外皆我師」（ワレ　イ　ガイ　ミナ　ワガ　シ）という言葉をご存じでしょうか？

小説「宮本武蔵」等で有名な作家の吉川英治さんが好んで使った言葉と言われています。自分以外の人、ものなど、すべてが自分に足りないものを教えてくれる、そんな謙虚な心で生活をすることで、人はより磨かれていくという教えです。

（もちろん悪事を学んではいけないし、どろぼうを見習ってはいけません。）

皆さんにいろいろな事を教えてくれる「師」は、学校や塾だけにいるとは限りません。家族や友達、先輩や下級生、近所や地域に住んでいる方々など、全く知らない人からもたくさんのことを学ぶことができるし、大自然から学ぶことも多いはずです。